

笑いが健康に良いことが科学的に実証できたという講演を拝聴した。筑波大村上和雄名誉教授は日本人で最もノーベル賞に近い科学者の一人という。最先端の遺伝子工学の研究から、「感性と遺伝子はつながっている」ことを究明。

遺伝子は2重らせん構造のDNAとスイッチが2つある。細胞は4の30億乗の情報の組合せからできていることを解説。人間業では未来永劫不可能な設計図からなる細胞は1つとして同じ物はない。しかも、一時も休まず、精確無比で自然に活動しているのは驚異そのもの。とてつもない存在が全生物の遺伝子を書きこんでいる。

先生は膨大な時間と費用をかけ、ヒトゲノムを解説したが、既書きこまれていた事実には唖然とした。人はショウジョウバエ一匹の細胞すら生み出せないのに、人類誕生の38億年前に、精緻で膨大な設計図が書かれていた。何か偉大な存在、サムシンググレートがいる。

人は母親のお腹から10月10日で誕生する。胎内で地球上の全生物の進化の歴史、爬虫類、魚などを経て生れる。人は皆生れた時は既に38億歳。人の命は地球の全歴史であり限りない価値がある。だから、命は何よりも尊い。

人が「楽しいうれしい」時は、笑いの正のスイッチがONで、「悲しい悔しい」などの負のスイッチがOFFの状態。そして、このスイッチのオンオフは心の持ちよう切替えられる。だから、にこやかにしておきなさい。「笑う門には福がくる」というのは科学的に正しいのだと言う。

高血圧がもたらす合併症の1つの糖尿病患者に、ある実験をした。最初に、大学の教授の話(これは判でおしたように堅い)。次に、お笑いの代表「B & B」の漫才。

話の前後に高血圧の数値を計測した。大学教授の時には目だった変化なし。即ち、何ら効果はない。一方、お笑いの後は、何と46も数値を下げる効果があった。

今、地方にあふれている空家対策と地域の活性化に、JA主催のお笑いイベントが「笑いセラピー」効果で、農家も気になる糖尿病の治療に貢献できると考える。中山間地に笑いがこだまする日が待ち遠しい。